R022.3-017ウ
1200500765666
2.3
017

印刷文化史展覽會目錄

松岡彰吉編

始

949
167

印刷文化史展覽會目錄

R
022.3
O·17

小田原國民文學研究会
小田原市圖書館 主催

印刷文化史展覽会目錄

会場 小田原市圖書館
会期 十月廿四日廿五日

發行所寄贈本

949
167

序

小田原國民文学研究会と小田原市圖書館との共同主催で印刷文化史展覽会を開催した。

今や大東亞の盟主として世紀の飛躍をなしつゝある皇國の偉大な文化は、どんな背景のもとに今日まで培はゝて來たか、文化と最も緊密な關係にある印刷關係の史的遺品を通じて、その興隆發展の樣相を明かにしたい。さうした意圖のもとに主催者は周到な準備を進めて、こゝに千二百年の往時より現在に至る日本印刷文化の概觀を展示することを得た。これによつて、我等の祖先が鴻大なる皇恩に帰一し奉りつゝ、世界に冠絶せる文化の華を咲かしめた足跡を辿り、日本精神の体得に寄與することを得るならば、時局下、此の催しも亦往事でないことを信じる。

なほこれが開催に当り、我等の意中を深く理解され、快く傳家の重宝を貸與せられた出品者各位に対し、こゝに深写なる謝意を表する次第である。

小田原国民文學研究会
小田原市圖書館

印刷文化史抄

我国で最初の印刷は、孝謙天皇の勅願に基く百萬塔中の陀羅尼で、其後室町末に至る約九百年間は、佛教文化と共に発達した。次で秀吉の朝鮮役の結果、彼地に発達してゐた活字印刷術を輸入した。その新式簡便な印刷法が傳來して、在來の一枚板に刻する方法であつた我印刷界は茲に始めて佛教から離れて、本質的な発展を遂げる事となつた。朝鮮活字印刷術により最初に行はれた活字印刷は後陽成天皇の勅版であるが、此の事は前掲の孝謙天皇の勅願に依ること、思ひ合せ、我邦印刷文化が皇恩に浴して発展を遂げた事を銘記したい。又印刷によつて創作を発表弘通する現象は慶長以後に発生したが、之と共に速報的の一枚刷も其頃現れて、之が後に新聞に移るのである。江戸中期以後版画色刷の発達が特に注意せられる。かくて明治初年頃本木昌造の苦心によつて西洋活版術が採用せられ、我印刷術に新生命を開いて今日に至つたのである。

印刷文化史展覽會目錄

一、大業三年二百佛版画　二枚ノ内壱枚　松田不空苑氏藏

日本に於ける最古の刊行物は天平勝宝二年（千百九十二年前）大伴赤麿犯罪懺悔文なるも遺物存せず、二十年を経て神護景雲四年（宝亀元年）に製作せられ、今遺存する百萬塔内に收藏する陀羅尼を以て最も古きものとす。然るに近時燉煌の石室より発見せられたる本圖には稚拙なる彩画の下に左の文字を刊摺せり。

大業三年四月大壯嚴寺沙門智果敬為燉煌守禦令孤押衙敬画二百佛

普勸衆生供養受持

この刊版は前掲陀羅尼の刊行に先つ事百六十三年である。詳細は国華四百十六號及び中央美術第百十五號或は「佛教藝術の鑑賞」松田福一郎著を参照せられたし。

二、百萬塔陀羅尼

相輪陀羅尼　　神護景雲四年（千百七十二年前）　　壱基壱卷　平塚　髙瀬慎吾氏藏

百萬塔は吾国に現在する最古の印刷物である。
天平宝字八年恵美押勝の乱の平定を祈願し給ふた称徳天皇の御発願に基いて、神護景雲四年に印刷され、一巻宛小塔の露盤の下に納められ、これを東大寺等十大寺へ御奉納になつたものである。陀羅尼には「根本、相輪、大度、白心印」の四種がある。印刷に就いては古来木版説あり、銅版説あり、未だ何れとも確認されてゐない。

三、聖徳太子十大弟子胎内蓮辨摺佛　三枚　東京　波多野重太郎氏藏

平安朝期、縦一寸五分、横一寸五分の蓮辨型の小紙に殆んど一杯に阿弥陀像を摺出し、裏面には願主の名がある。

四、阿弥陀如來像　　平安時代　一枚　　柏木一呂氏藏

山城国淨瑠璃寺の九体佛の中尊を修理せる時胎中より出でたるものなり。一紙に數十体を印刷し數十枚を重ね綴ぢて籠めたものである。本呂は其の台座の蓮辨が一重のものである。

五、仝二重蓮辨摺佛　　平安時代　一枚　　田代亀雄氏藏

前掲の台座の蓮辨が二重のものなり。

六、毘沙門天像　　七百八十一年前　一枚　　松田不空葬氏藏

數多の摺佛中、其記年銘あるものとしては最も古きものとす。一紙に大体宛を印し數十枚を巻き堅めて彫像の胎内に籠めたるものなり。紙背に左の墨書銘あり。

應保二年壬申三月七日癸卯　癸酉日曜　佚養了

像は岩上に立ち、右手に宝剣を執り左手に宝塔を支ゆ。羯磨衣を着け簡単なる甲を被り光背には火焔を帯ゆ。

大和中川十輪院毘沙門天像の胎内に收めたるものなり。

七、毘沙門天像　凡八百年前　一枚　松田不空羂氏藏

一紙に廿体を摺りたるものにして、法隆寺の旧藏なり。描線雄勁、尊容古樸、明瞭なる製作年代を缺くも、蓋し前記の毘沙門天像より古きものなるべし。

重要美術品

八、宋版　梵網　二帖　松田不空羂氏藏

高山寺旧藏北宋版にして藏外經なり。

支那に渡つた僧侶や彼地の商船が輸入したる五代北宋の支那版本は、久しく憂微せる我國の開版事業に幾多刺戟を與へ、平安時代の印刷興隆期をつくる基となつた。

重要美術品

九、宋版　大唐西域記　三十九帖内一帖　松田不空羂氏藏

南宋、東禪寺本

重要美術品

一〇、宋版　大乘起信論疏　一帖　松田不空羂氏藏

高山寺旧藏本、巻末に嘉定四年十月廿八日科畢の朱書あり。

南宋版

一一　春日版　大般若波羅蜜多經　巻第三百七十八　一巻　平塚高瀬慎吾氏藏

尾州中庄、満願寺旧藏、鎌倉中期

黄紙、元来巻子本なりしを中古折帖に改めたものゝやうである。墨色は漆黒、書風亦雄勁、春日版中の佳板と、称すべきものであらう。巻末の刊記は近代の盲記である。

重要美術品

一二、高野版三教指歸　巻下　一巻　松田不空葬氏藏

六百二十年前、奥に
元亨元年六月十一日
の刊記あり。高野版は建長頃から高野山で出版せられた経典で、本書はその代表的な一本である。

一三、十六善神圖　五百五十九年前　一帖　松田不空葬氏藏

大般若経第二百十三の扉圖なり。巻尾に
皆永徳癸亥夏六月念八日也
の墨書あれば、この版は夫以前なるべし。

一四、不動二童子圖　凡五百五十年前　三幅　松田不空葬氏藏

南北朝期に不動を画きて聲名を博せる妙沢の絵を粉本として、上版せるものと思ふ。筆勢雄渾にして慈潤なり。次に掲ぐる十二天図の先駆をなせるものなり。

一五、應永版十二天像　毘沙門天・水天　五百三十五年前　二幅　杉崎一雄氏藏

真言宗にて灌頂を行ふ時に用ひらるゝ十二天像の版画で、梵天・竹箭の戟の柄に次の文字がある。

讃州大内郡與田郷神宮寺虚空藏院　應永十四丁亥三月廿一日
敬仰十二天像以為仲法護持矣　大願主増叶　同志利彫聖宥

即ち紀年銘ある彩色版画として日本版画史上價値高きものなり。出陳の二幅及び帝釈天、伊舎那天、炎魔天の三幅は杉崎氏、火天風天を柏木一呂氏、

地天を東海俊美氏、羅刹天は春日俊雄氏の珍藏なり。

一六、大般若経　應永十七年版　五百三十二年前　一帖　東京　波多野重太郎氏藏

卷尾に左の刊記銘あり。
于時應永十七年庚寅卯月三日願主沙門性惠敬白

一七、天平期摺佛用銅印　凡千三百年前　一顆　松田不空葬氏藏

本摺印を以て一紙に數佛を押摺せるものなり。本邦に於ては藤原期の遺物より古いものはないが、支那敦煌の発掘品には唐代（天平期）の遺物あり。本印は阿弥陀佛にして裏面に其刻名あり。

一八、聖德太子像版木　凡六百年前　一枚　松田不空葬氏藏

播磨鶴林寺の旧藏にして、鎌倉期の遺品なり。用途は過科会の料にして、

裏に牛王宝命御影堂の陽刻あり。縦一尺二分横七寸三分

一九、大黒天像版木　凡五百年前　一枚　松田不空葬氏藏

両面に大黒天を刻す。紀州那智社の旧藏である。古樸な風手は鎌倉期を下るものにあらずと信ず。山城仁和寺には同型の大黒天を摺れる一紙を遺す。縦九寸六分横七寸六分。

二〇、火魔王像版木　推定足利期　一枚　松田不空葬氏藏

二一、弥陀三尊來迎圖版木　德川期　一枚　松田不空葬氏藏

二二、繪入本版木　德川期　一枚　松谷文治氏藏

二三、阿弥陀如來像（墨摺）　一枚　東海俊美氏藏

朝鮮法利大本山海印寺藏版
高麗時代の版木を以て、吾が徳川末期頃摺れるものといふ。

二四、春日板成唯識論　巻十（玻璃版）　一巻　平塚高瀬慎吾氏藏

原本正倉院聖語藏
春日板とは春日明神に奉賽のため印刷された経文のことで、平安朝末期から室町末期まで連続的に行はれてゐる。従つて遺物も比較的多い。この寛治二年の成唯識論は刊記ある印刷物として吾國現存最古のもので、印刷史上重要な地位を占むるものである。

二五、淨土版蓮如上人御文　足利期刊　一冊　春日俊雄氏藏

石山本願寺第十一代顯如光佐の開版本で、巻尾に顯如の墨書花押あり。

二六、古活字版法華玄義序　文祿四年　一帖　平塚高瀬慎吾氏藏

古活字版印刷物として、現存最古のもので、京都本國寺の僧日保が百部刊行したものである。

二七、四体千字文　慶長九年刊　一巻　平塚高瀬慎吾氏藏
洞雲堂新栞

二八、四体千字文　慶長十一年刊　一巻　平塚高瀬慎吾氏藏
春枝開板

徳川家康天下を平定するや、久しく地中に埋もれてゐた百草の萌え出でしが如く、文化の華燎爛として展き、出板のことまた盛んに行はるゝに至つた。此の二種の四体千字文の如きも当時の風潮に乗じた一現象と見ることが出來る。慶長九年出板の該書の世に行はるゝや、直に之を板下として、

類似本を作り出せるが如きはか、る書籍の如何に要求せられたるかを如実に示すものである。

二九、慶長整板六朝　刊記曰慶長十八年　一冊　平塚　髙瀬慎吾氏藏

活字版は小數の刊行物には便利であるが、大部のものや度々再版を要求されるものには頗る不便であつた。そこで版數を重ねるものは整板に改めて刊行された。本書の如きも亦活字版を板下として整板に改められたもの、一例である。而もその印刷面の整美なるは一見古活字版と見間違へる位である。

三〇、古活字版春秋経傳集解　慶長刊　一卷　平塚　髙瀬慎吾氏藏

古活字版としては優秀版に属するものである。特にその輪郭及型角の技工は前版に比すべきものと思はれる。

三一、古活字版撥決集　上、下　元和四年刊　二冊　平塚　髙瀬慎吾氏藏

近世初期古活字版の行はるゝや、京都を中心として比叡山、高野山等の古刹に於ても盛んに佛書の刊行を試みた。本書は比叡山にて印刷されたもので、一名「叡山版」と呼ばれてゐる。

三二、元和卯月譜本　二冊　東京　波多野重太郎氏藏

誓願寺　江口

三三、天海版大般涅槃経　巻第十三　寛永中　一卷　平塚　髙瀬慎吾氏藏

天海僧正が上野寛永寺で行つた古活字印刷物である。天海が幕府といふ背景を以て行はしめたとはいへ、大千三百二十三巻の厖大なる一切経の刊行を完成したことは驚嘆に價する事業であつた。而も印刷面の整美なることは古活字印刷物の白眉である。この一切経に用ゐた古活字は今尚寛永寺に保存されてゐる由である。

三四、古活字版 海庵先生語錄類要　正保三年刊　一冊　平塚　髙瀨愼吾氏藏

本書には二種の古活字が使用されてゐるのを特徴とする。正保に至つて尚古活字を用ゐてゐる遺物は極めて少ない。

仙台青柳館文庫旧藏

三五、古　曆　古版本　一冊　東京　波多野重太郎氏藏

整版本で往に「古曆」とあり、序文奥付題筮等を欠くので、題名を審にし得ない。天文三年から寛永八年まで。

三六、吉利支丹版　玻璃版　こんてむつす・むんぢ　慶長十五年刊　一冊　平塚　髙瀨愼吾氏藏

吉利支丹版とは文祿から慶長へかけて天草、長崎、京都等に於てなされた耶蘇会関係の活字本を總称するのであるが、近世の耶蘇教彈壓が極度にこの種類の出版物を湮滅し去つて、現在世界にせ七種類しか殘つてゐない。

この印刷のために伊太利人アレッサンドロ・バリニヤノは態こ伊太利から印刷機を招來したのであつた。若しこの時の洋式印刷法が吾国に傳播されたとしたら、近世の印刷物は現存のものと大きな差異を生じてゐたであらうと思ふ。が、兎にかく文祿慶長間に舶來された洋式印刷術は根こそぎ滅却され盡してしまつたわけである。

三七、笈さがし　丹緑本　一冊　東京　波多野重太郎氏藏

幸若舞曲三十大番の内である。毎半葉十行、挿絵四圖、寛永十二年の刊本であると思ふ。

まだ色刷の木版術が發達しなかつた当時挿絵に丹・緑・黄等の單彩を筆で加へることが行はれた。

三八、菱川師宣画　古郷歸の江戸咄　貞享四年版　大冊　京京　波多野重太郎氏藏

著者不詳。彼の溪井了意の「江戸名所記」を模するところ多し。種々の意

味から江戸の古地誌として貴重本である。

三九、菱川師宣画 菱川築山圖庭畫　元禄四年版　一冊　東京　波多野重太郎氏藏

浮世絵の始祖菱川師宣の画本。元表紙や元題箋を完全にとゞめてゐる。初刊本は延宝八年で、本書はその再刻本である。

四〇、格致算書　朱彩色摺古板本　一冊　東京　波多野重太郎氏藏

色刷としては極く初期のもの。

四一、海の幸　色摺本　宝暦十二年刊　一冊　熊田頭四郎氏藏

四二、水族寫眞（鯛部）　安政三年刊　二冊　熊田頭四郎氏藏

神田多町の青物商甲賀屋長右衛門は幼時より魚族を好み識別をよくして、珍魚があれば盡く自ら寫生した。之を水族寫眞と名づけて鯛部二冊だけは出版したが、費用が嵩んで遂に身上をつぶしてしまつたといふ。

四三、（黄表紙）龍宮苦界玉手箱　寛永政年刊　一冊　永見德太郎氏藏

北尾重政画　曲亭馬琴作　蔦屋重兵衛版

安永から文化頃まで盛んに発行されたもので、一流の作者、一流の画人の協力になるものが多く、時の政治や大名の功績を諷刺し又市民生活の様相を活写してある。表紙の黄なる故黄表紙と呼ばる。

四四、（俳書）美佐古鮓　仙台版　文化十五年刊　一冊　永見德太郎氏藏

仙台國分町、加志和屋正大枠

仙台の士由慶人撰、友人仙府馬年、門人盛岡蘭郷校、跋文は阿蘭陀人ヘンデリキ、ドーフの横文字にて、其訳は長崎の阿蘭陀通詞子潮なり。ドーフ

は享和三年求潮し、出島屋敷の館長（甲比丹）

四五、古版本零本十二点　十二冊　田代亀雄氏藏

和玉篇（慶長木活片假名音訓付一冊）　平家物語（平かな木活本）　太平記（古活字本二冊）　新刊吾妻鏡（古活字本巻世七ー四十一、一冊）　類字名所和歌集（元和木活本）　史記列傳（古活字本巻一）　正法眼藏（古活字本）　大假本平家物語（元禄七年刊絵入巻六）　松の葉（元禄十六年刊音曲本巻一）　傾城禁短気（宝暦八年八文字屋版）　京童（明暦四年刊地誌）

四六、春鶯集　上、中、下　三冊　小田原市圖書館藏

小田原藩主大久保忠真侯の歌集で、天保十三年五月の北村季文の序文がある。

四七、五種遺規　天保三年刊　合本三冊　杉浦親之助氏藏

小田原藩大久保家の分家烏山大久保忠礼侯が梓に上せしものなり。

四八、江戸ハルマ辞書　寛政八年　三十七冊　東京　波多野重太郎氏藏

日本人丈で編纂した最初の歐和対訳辞書で、発行部數僅に三十。傳本極めて稀で現存二部のみと云はれる。尚、本書につきては勝俣銓吉郎氏の考證がある。

四九、長崎出島版　蘭英字書（活字版）　安政元年刊　一冊　永見德太郎氏藏

著者スチュルド、出島屋敷独特の活字を用ゐ、和紙刷にして装幀は阿蘭陀風なり。安政文久の頃、長崎出島屋敷（蘭館）から數種の出版があり、注目をひいた。

長崎出島版

五〇、蘭語文法書　安政三年刊　一冊　東京　波多野重太郎氏藏

長崎といふ文字はないが、オランダより活字を輸入して、長崎で印刷せるもの。

五一、和汐乙蘭土文範　安政三年江戸版　二冊　東京　波多野重太郎氏藏

前掲蘭語文法書の江戸版である。即ち本書は、長崎版をもとにして同年に江戸で刊行された。

五二、司馬江漢鐫　銅版地球全圖　寛政四年刊　一鋪　平塚　高瀬愼吾氏藏

吾國銅版印刷の鼻祖を司馬江漢とす。江漢はじめ長崎にありてこの技を習得し、更に苦辛研究の結果これを大成し、江戸に於て數種の繪画を刊行した。この地球全圖は寛政四年の作で、江漢の代表的作品といはれてゐる。

五三、須弥山儀　文化十年円通刊　一幅　東海　俊美氏藏

地球平地説にして西洋の地球説に対抗せるものなり。本圖は普門律師円通が広く須弥山説を宣傳する為めに開板したもので、時計の道理を應用してこれを作ったのは円通が初であらう。

五四、釋迦涅槃像　彩色版画　一軸　三好達治氏藏

近世中期頃の作なれど、百種に余る此種涅槃像版画中の優秀なるものなり。平塚運一氏にこれを集大成せる近著ありと。

五五、横浜居留地圖　増田万吉版　明治四年刊　一鋪　高田安兵衛氏藏

増田万吉はゴム製潜水衣業の始祖であり、又日本製の潜水器械で明治四年に神奈川沖で沈没した米国船を引揚げた事もある。

五六、紅毛外科療治集　貞享元年刊　横本一冊　永見徳太郎氏藏

肥州長崎産洛陽寓居　中村宗瑛著
京二条通西へ入町　山本長兵衛板

五七、南蛮寺興廃記　木活字版　杞憂道人刊　一冊　宮沢九萬象氏藏

五八、大唐諸君子贈答集　化政期頃刊　和本一冊　永見徳太郎氏藏

来舶唐人の船主等の詩文集。長崎大徳寺藏版
その一人たる江芷閣の如きは学名高く、頼山陽の長崎訪問は、彼に面接す
ることが大きな目的であつたと。

五九、遠西奇器述　嘉永甲寅(安政元年刊)　一冊　永見徳太郎氏藏

薩摩島津家藏版
裕軒川本幸民口授　田中綱紀筆記
内容は寫眞術、蒸気車舟、傳信機其他科学関係なり。

六〇、海岸備要　嘉永三年刊　和本四冊　永見徳太郎氏藏

和蘭譯詞　本木正栄子光譯解
姫　路　布川通璞弦五校正
著者は長崎の人、西洋活版術の祖本木昌造は本書の著者より二代後なり。

六一、舎密局必携　文久二年刊　三冊　永見徳太郎氏藏

上野彦馬抄訳　堀江公蔚閲
化学関係の書にして、附録に寫眞撮影術等を掲ぐ。

六二、異國人物外夷人物（倭漢三才図絵）　一冊　永見德太郎氏藏

享保年間刊行の「唐土訓蒙圖彙」と同種のもので、本書は正德元年刊行である。

六三、瓦版　亞米利加國御上使御名前　一枚　田代亀雄氏藏

安政七年正月寛條丸で木村攝津守、勝麟太郎等が渡米した時の瓦版である。

六四、長崎版画　阿蘭陀船圖　一枚　平野正登氏藏

六五、仝　阿蘭陀美人之圖　一枚　仝

外人の異風奇俗を取扱つた浮世絵を總じて長崎絵といふ。筆彩色附の幼稚なるを愛すべく、海外文化の傳來を知るに欠くべからざるものなり。

六六、錦絵　春英力士谷風圖　一枚　平野正登氏藏

春英は春章門の逸足で、特に写実の妙を発揮してゐる。本圖は寛政期の作なり。

六七、浮世絵　廣重大磯　東海道五十三次内　保永堂版一枚　平野正登氏藏

六八、仝　廣重土山　仝　一枚　仝

支那版画の技法を入れて発達した錦絵は、又享保以後西歐の遠近法を学んで、遂に広重の特異の風景画となつた。

六九、浮世絵　國芳正札附現金男　丸久版一枚　湯川治郎氏藏

七〇、仝　通俗水滸傳豪傑百八人の壱人　伊場仙版一枚　仝

歌川國芳は豊國の門下で文政の初より次第に名を知られ、武者絵を以て世に聞ゆ、水滸傳の如きは精彩一時の観をなせり。

七一、錦絵　古おもと名よせ　三枚　東海俊美氏藏

一枚に天保二年とあり。徳川田安家献英樓旧藏なり。

七二、関成所版　英和対譯袖珍辞書　慶應二年　一冊　平塚髙瀬慎吾氏藏

七三、仝　仝（整版）　一冊　仝

関成所は最に和蘭から幕府へ献上したスタンホープ型手引印刷機と、それに附属した多數の欧文活字其他を以て數種の書籍を印行した。本書は文久二年開版せる本書の再版で、堀亀之助が刊行したものである。尚本書に使用した邦字は柳令鋪が作成したといふことである。

この辞書は需要の増加に伴つて三版四版の必要に迫られたが、採字標字の繁雑ト堪え兼ねて、本書を板下として整板に改め印刷し大いに世に行はれ類似の辞書も多數出現した。

この種の辞書を「桃辞書」と呼んだ。形状が桃に似てゐたからであらう。

七四、官板　バタビヤ新聞　平塚髙瀬慎吾氏藏

本書は蕃書調所にあつた洋学者たちが海外の新聞を飜訳し、木活字を以て極めて小部數印刷配布せるもの、本邦新聞史上重要なる位置を占めるものである。

七五、KRAMERS' WOORDENTOLK　洋綴小型本　一冊　永見徳太郎氏藏

佐久間象山愛藏の朱印あり。

七六、鉛活字版 砲軍操法　一冊　平塚　高瀬慎吾氏藏

江戸末期大高主水は独特の製法を以て鉛製活字を鑄造し、縱武鑑及陸軍所に於て數種の兵書を刊行した。本書も亦その一種である。

七七、活字版 渡六之助著 法普戰爭誌畧　明治四年刊　八冊　平塚　高瀬慎吾氏藏

印刷資料を調査して見ると、近代の活版印刷が明治六年以降長足の進歩を為した行跡を知ることが出來る。從つて明治五年以前の活版印刷物は寥々たるものである。本書は刊記を以て見るに明治四年の開版である。

七八、英和對訳辞書　明治五年七月刊　一冊　永見德太郎氏藏

開拓使版にして、荒井郁之助が子弟教育のため着述せるものなり。

七九、亜欧堂田善及新井令恭鐫 解剖圖附醫範提綱　文化弍辰　平塚　高瀬慎吾氏藏

亜欧堂田善は福島縣須賀川の人、司馬江漢に就て銅版製作術を学び、樂翁侯に愛せられ、亜欧堂の號を受く。解剖圖は田善とその愛弟子新井令恭に依つて著されたものである。

尚「医範提綱」は宇田川榕菴の著である。

八〇、浦上天主堂版 童蒙論說　明治十年刊　一冊　永見德太郎氏藏

御出世以來一八七七年六月廿七日の出版にして長崎浦上の方言を交へて書かる。

八一、東京日々新聞　第一號　一枚　小田原市圖書館藏

八二、西班牙條約　附貿易定則　運上目錄　和本一冊　永見德太郎氏藏

金川縣発行

スペイン代表、西班牙公使ゼ・ヘリベルト・ガルシヤ・デ・ゲウエトと日本代表東久世中將、幸島陶蔵、井関育兵衛との條約締結書。

八三、陸軍医事雑誌　明治九・十年刊　五冊　永見徳太郎氏蔵

明治九年一月陸軍文庫の発行名が、仝十年九月には長崎軍團病院となれり。恩ふに西南戦役のためならんか。

八四、石版
陸軍少將野津鎮雄肖像　明治八年　一枚　平塚　高瀬慎吾氏蔵

吾国石版印刷は幕末既に下岡蓮杖に依て試みられ、その後松田敦朝、梅村翠山等の銅版師によつて研究されたといふが、未だ完成には至らなかつた。而して、明治八年ポラールドの來朝に依つて始めて成功の端緒を得たもののやうである。この肖像画は五姓田義松によつて画かれたものであるが、これを石版印刷に附して嚆の如きは、当時ポラールド乃至その傳習者の手になつたものらしく、本邦石版印刷物の極めて初期に屬するものである。

八五、キヨソネ版
大久保利通肖像　明治十二年　一枚　平塚　高瀬慎吾氏蔵

明治八年印刷局は銅版印刷の改善を企圖し、伊太利人エドアルド・キヨソネを聘した。キヨソネは独特の彫刻法を以て、地券、郵便切手、印紙、端書、紙幣等を作成し、明治十二年大久保利通肖像を鐫刻した。これは本邦に於けるメゾチンタ式彫刻法の端矢である。

八六、ビゴー銅版本　一冊　佐野修次氏蔵

ビゴーが日本美術の研究をもつて我國に渡來したのが明治十六年三月、横浜に住して漫画雑誌トバエを出し、佛人らしい奇警の観察と諷刺で鳴らした。

八七、輿車圖考附圖帖（故実叢書）　二冊　松谷文治氏蔵

八八、杉浦親之助編
孝経五種　大正十四年　一冊　杉浦親之助氏藏

編者が二十有余年に亘り二百種の孝経を蒐集せしもの、中より、其五種を選んで、自費を以て出版せり。

八九、著者刷本
大菩薩峠　一冊　永見徳太郎氏藏

甲源一刀流の巻　大正七年一月十日
中里弥之助（仮名）
作者自身が手刷りの機械を一台買入れ、活字を拾い校正をやり、組版印刷迄手傳って出来たもので、流傳はきはめてすくない。

追加

一、奥村政信
扇賣り　大判墨刷絵　一枚　松田不空蓊氏藏

画家であり、板元絵草紙屋の主人でもあった政信は、師宣、清信等の影響を受けて一流の画風を創り出し、版画史上に大きな功績を殘して、明和年間七十九才で歿した。

二、奥村利信
木に倚る美人　細絵判丹絵　一枚　松田不空蓊氏藏

利信は政信の子であるとも云はれる。よき素質を持ち乍ら、三十才台で歿した。

三、鈴木春信
江戸八景　中判錦絵　一枚　松田不空蓊氏藏

幼稚であった紅摺絵から一躍して錦絵を創り出したのは春信であった。

949
167

製本控

949 函	167 號	年 月 日
印刷文化史展覽会目録		
		1 冊
備考		

に海の状態が傾然すもなかのであろうと思ふ。明治初年頃迄は、四五年頃から四銭位の間が全盛期であつた。

昭和三年頃の

三四名を手載

9xJ
167

昭和十七年十月十五日　印刷
昭和十七年十月二十二日　發行

神奈川縣小田原市幸一丁目八五三番地
編纂發行兼印刷者　松岡彰吉

神奈川縣小田原市幸一丁目八五三番地
發行所　小田原市圖書館

終